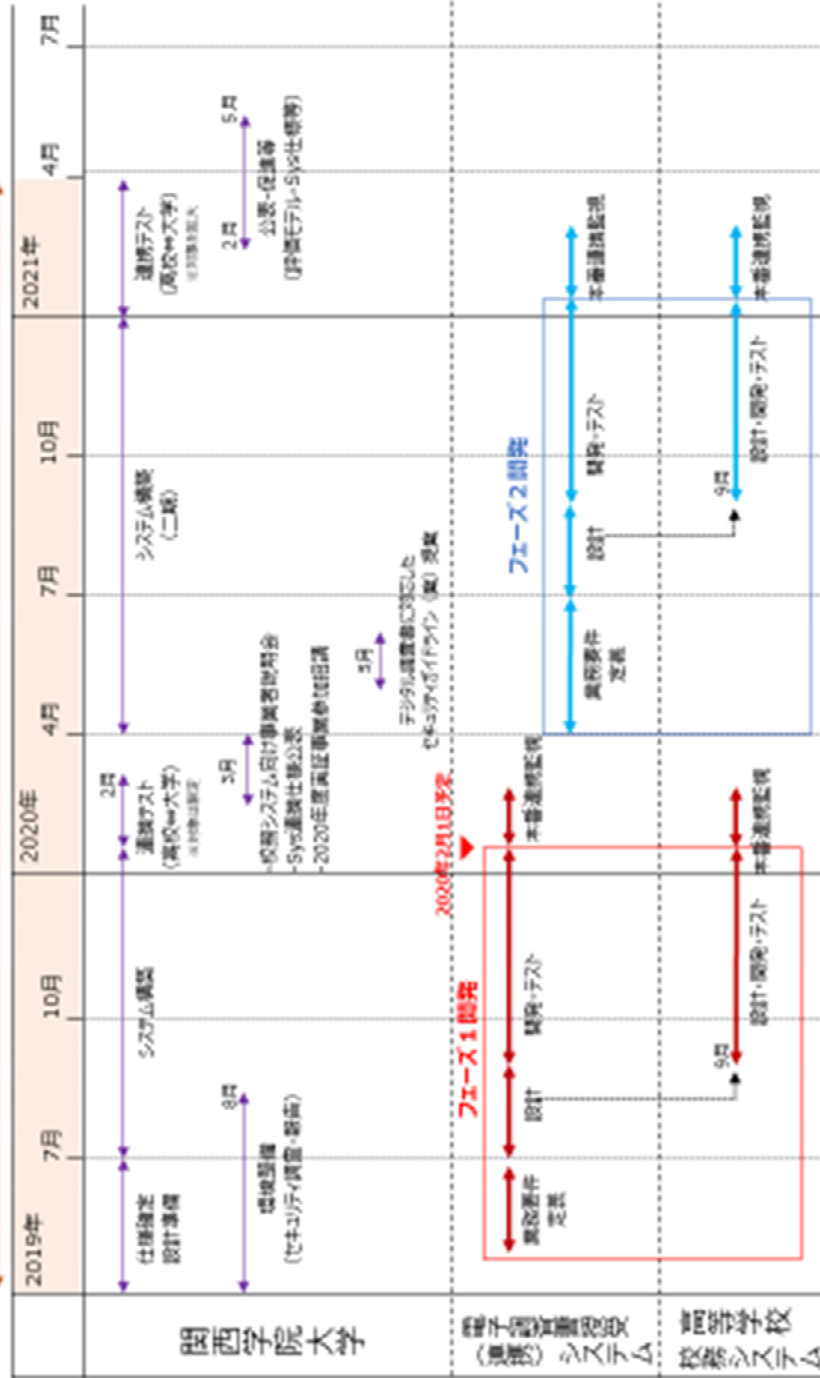


## 資料⑨実証事業に向けた開発スケジュール

平成31年度 大学入学者選抜改革推進委託事業期間



資料⑩-1 システム操作画面イメージ(高校教員画面)

電子調査書システム ●●●●高校 [トップ](#)

**先生トップ**

お知らせ

2019/10/02 (水) **【メンテナンス】** 高校メンテナンスお知らせ2

2019/10/04 (金) **高校普通なお知らせ1**

2019/10/06 (日) **高校普通なお知らせ2**

**生徒検索** ●

※「学びのデータ」のダウンロードや、調査書の登録を行いたい生徒を検索することができます。

学校名

学年

組

生徒名 (カナ)

調査書が必要な生徒のみ

[よくあるご質問](#) | [利用規約](#)

運営：文部科学省大学入学選抜改革推進委託事業

電子調査書システム ●●●●高校 [トップ](#)

**先生トップ**

お知らせ

2019/10/07 (月) **【重要】** 高校重要お知らせ1

2019/10/03 (木) **【重要】** 高校重要お知らせ2

2019/10/05 (土) **【メンテナンス】** エラー検証のお知らせ

**生徒検索** ●

※「学びのデータ」のダウンロードや、調査書の登録を行いたい生徒を検索することができます。

学校名

学年

組

生徒名 (カナ)

調査書が必要な生徒のみ

(全11件)

<input type="checkbox"/>	ID	生徒氏名	学年	組	番号	学びのデータ 有無	調査書登録数 /必要数	調査書 管理画面
<input type="checkbox"/>	SASSI0822261708	テスト0306 テスト0306	高校3年生	01	0001	○	0/1	<input checked="" type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	SASSI5668945218	試験 テスト	高校3年生	01	0002	○	5/5	<input checked="" type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	SASSI0963611843	嵐城 城市	高校3年生	01	0005	○	2/2	<input checked="" type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	SASSI0724082663	テスト 花子	高校3年生	01	0007	○	10/15	<input checked="" type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	SASSI8602035056	テスト 真々子	高校3年生	01	0009	○	9/9	<input checked="" type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	SASSI8435937213	城蔵学 久広	高校3年生	90	0005	○	1/52	<input checked="" type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	SASSI2384341683	城蔵学 久六	高校3年生	90	0006		46/51	<input checked="" type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	SASSI0431284442	城蔵学 久七	高校3年生	90	0007		0/250	<input checked="" type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	SASSI8157007941	城蔵学 久七	高校3年生	90	0008		2/300	<input checked="" type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	SASSI3660034462	城蔵学 久九	高校3年生	90	0009		0/300	<input checked="" type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	SASSI5340367040	城蔵学 九十	高校3年生	90	0010		0/450	<input checked="" type="checkbox"/>

(全11件)

[よくあるご質問](#) | [利用規約](#)

運営：文部科学省大学入学選抜改革推進委託事業

## 調査書管理

※調査書登録を行いたい「大学提出用データ」を選択し、画面下の「調査書登録」を押してください。

年組番: 高校3年生01組0001番

生徒名: テスト0306 テスト0306

(全1件)

🔄 一覧を最新化

選択	提出先 大学	入試 区分	入試名	大学提出用データ 作成年月日	調査書 進捗	調査書の ファイル名	調査書 削除
<input type="checkbox"/>	●●●● 大学	AO入試 (学 スト)	テスト	2019/12/20	未登録		

調査書登録

(全1件)

先生トップへ戻る

[よくあるご質問](#) | [利用規約](#)

運営: 文部科学省大学入学者選抜改革推進委託事業

## 調査書管理

※調査書登録を行いたい「大学提出用データ」を選択し、画面下の「調査書登録」を押してください。

年組番: 高校3年生01組0001番

生徒名: テスト0306 テスト0306

(全1件)

🔄 一覧を最新化

選択	提出先 大学	入試 区分	入試名	大学提出用データ 作成年月日	調査書 進捗	調査書の ファイル名	調査書 削除
<input type="checkbox"/>	●●●● 大学	AO入試 (学 スト)	テスト	2019/12/20	登録完了	OK_サンプル_2.xml	🗑

調査書登録

(全1件)

先生トップへ戻る

[よくあるご質問](#) | [利用規約](#)

運営: 文部科学省大学入学者選抜改革推進委託事業

## 調査書管理

※調査書登録を行いたい「大学提出用データ」を選択し、画面下の「調査書登録」を押してください。

年組番: 高校3年生01組0001番

生徒名: テスト0306 テスト0306

(全1件)

🔄 一覧を最新化

選択	提出先 大学	入試 区分	入試名	大学提出用データ 作成年月日	調査書 進捗	調査書の ファイル名	調査書 削除
<input type="checkbox"/>	大学	AO入試 (学 スト)					

調査書登録

(全1件)

調査書の登録は学校内の規定に基づき、調査書の承認権限を持つ方、あるいは権限委譲、業務指示などを受けた方が登録を行ってください。

キャンセル      OK

[よくあるご質問](#) | [利用規約](#)

運営: 文部科学省大学入学者選抜改革推進委託事業

## 調査書登録確認



以下の提出先大学の「大学提出用データ」に調査書を登録します。生徒名、提出先大学、指定した調査書のファイル名に問題なければ「この内容で登録する」を押してください。

## 生徒情報

年組番：高校3年生01組0001番  
生徒名：テスト0306 テスト0306

## 提出先大学

●●●●大学

## 指定した調査書のファイル名

OK\_サンプル\_2.xml

## 参考情報



アップロードされた調査書と「大学提出用データ」の生徒カナ氏名または生年月日が一致していません。問題なければ「この内容で登録する」を押してください。

## 調査書

- 1) 生徒カナ氏名：デモ サンプル
- 2) 生年月日：2002-02-01

## 大学提出用データ

- 1) 生徒カナ氏名：テスト
- 2) 生年月日：2020/03/02

[調査書管理へ戻る](#)[この内容で登録する](#)[よくあるご質問](#) | [利用規約](#)

運営：文部科学省大学入学選抜改革推進委託事業

## 調査書削除確認



以下の「大学提出用データ」に登録されている調査書を削除します。削除する調査書に間違いがなければ「調査書削除」を押してください。  
生徒が「大学提出用データ」を大学に提出するためには、再度調査書を登録いただく必要があります。

## 生徒情報

年組番：高校3年生01組0001番  
生徒名：テスト0306 テスト0306

## 提出先大学

●●●●大学

## 削除する調査書のファイル名

OK\_サンプル\_2.xml

[調査書管理へ戻る](#)[調査書削除](#)[よくあるご質問](#) | [利用規約](#)

運営：文部科学省大学入学選抜改革推進委託事業

## 調査書登録結果



調査書の登録作業が完了しました。登録結果は以下をご確認ください。

提出先大学	入試名	指定した調査書の ファイル名	登録結果	エラー内容
●●●大学	テスト	OK_サンプル_2.xml	登録完了	

[調査書管理へ戻る](#)[先生トップへ戻る](#)[よくあるご質問](#) | [利用規約](#)

運営：文部科学省大学入学選抜改革推進委託事業

## 調査書削除結果



登録されていた調査書の削除が完了しました。

[調査書管理へ戻る](#)[先生トップへ戻る](#)[よくあるご質問](#) | [利用規約](#)

運営：文部科学省大学入学選抜改革推進委託事業

## 資料⑩-2 システム操作画面イメージ(大学画面)



[よくあるご質問](#) | [利用規約](#)

運営：文部科学省大学入学者選抜改革推進委託事業



[よくあるご質問](#) | [利用規約](#)

運営：文部科学省大学入学者選抜改革推進委託事業

調査書検索結果

(全1件)

<input type="checkbox"/>	電子調査書コード (DeP出願コード)	調査書がな氏名	調査書種別
<input type="checkbox"/>	JGVKSHRG55	デモ サンプル	

(全1件)

[大学トップへ戻る](#)

📄 調査書ダウンロード (0件)

[よくあるご質問](#) | [利用規約](#)

運営：文部科学省大学入学者選抜改革推進委託事業

調査書詳細

学籍の記録

生徒情報

氏名	デモ サンプル	
ふりがな	デモ サンプル	
生年月日	2002-02-01	
性別	2	
現住所	住所	愛知県犬山市凸田99-99-99

在学状況

学校情報	設置区分	2
	学校種別	1
	教育課程の区分	S1
	課程学科	1
	学科区分1	hogeHoge1
	学科区分2	hogeHoge2
学校名	東京府立第3中学校	

異動状況

入学	入学年月日	2020-04-01
編入学	編入学年月日	2020-06-01
	編入学時学年	H1
転入学	転入学年月日	2020-06-24
	転入学時学年	H1
卒業	種別	2
	年月日	2020-03-31

各教科・科目等の学籍の記録

各学科に共通する各教科・科目

教科名	国語		
科目名	国語総合		
カリキュラム年度	2017		
課替元教科コード	S01		
課替元教科名	国語		
課替元科目コード	S01-02		
課替元科目名	国語総合		
評定情報	学年	H1	
	処理年度	2017	
	評定	通年	4
評定情報	学年	H2	
	処理年度	2018	
	評定	通年	3
評定情報	学年	H3	
	処理年度	2019	
	評定	通年	4
修得単位数の計	4		

**各学科に共通する各教科・科目**

教科名	国語		
科目名	現代文B		
カリキュラム年度	2017		
代替元教科コード	S01		
代替元教科名	国語		
代替元科目コード	S01-08		
代替元科目名	現代文B		
評定情報	学年	H1	
	処理年度	2017	
	評定	通年	4
評定情報	学年	H2	
	処理年度	2018	
	評定	通年	3
評定情報	学年	H3	
	処理年度	2019	
	評定	通年	4
修習単位数の計	4		

**各学科に共通する各教科・科目**

教科名	地理歴史		
科目名	世界史A		
カリキュラム年度	2017		
代替元教科コード	S02		
代替元教科名	地理歴史		
代替元科目コード	S02-02		
代替元科目名	世界史A		
評定情報	学年	H1	
	処理年度	2017	
	評定	通年	4
評定情報	学年	H2	
	処理年度	2018	
	評定	通年	3
評定情報	学年	H3	
	処理年度	2019	
	評定	通年	4
修習単位数の計	4		

**各学科に共通する各教科・科目**

教科名	地理歴史		
科目名	日本史A		
カリキュラム年度	2017		
代替元教科コード	S02		
代替元教科名	地理歴史		
代替元科目コード	S02-06		
代替元科目名	日本史A		
評定情報	学年	H1	
	処理年度	2017	
	評定	通年	4
評定情報	学年	H2	
	処理年度	2018	
	評定	通年	3
評定情報	学年	H3	
	処理年度	2019	
	評定	通年	4
修習単位数の計	4		



**主として専門学科において開設される各教科・科目**

教科名	農業		
科目名	農業と環境		
カリキュラム年度	2017		
代替元教科コード	S50		
代替元教科名	農業		
代替元科目コード	S50-02		
代替元科目名	農業と環境		
評定情報	学年	H1	
	処理年度	2017	
	評定	通年	4
評定情報	学年	H2	
	処理年度	2018	
	評定	通年	4
評定情報	学年	H3	
	処理年度	2019	
	評定	通年	4
修得単位数の計	2		

**主として専門学科において開設される各教科・科目**

教科名	農業		
科目名	農業情報地理		
カリキュラム年度	2017		
代替元教科コード	S50		
代替元教科名	農業		
代替元科目コード	S50-08		
代替元科目名	農業情報地理		
評定情報	学年	H1	
	処理年度	2017	
	評定	通年	4
評定情報	学年	H2	
	処理年度	2018	
	評定	通年	4
評定情報	学年	H3	
	処理年度	2019	
	評定	通年	4
修得単位数の計	2		

**総合的な学習の時間**

修得単位数の計	2
---------	---

**その他**

名称	総合格闘技の学習の時間
修得単位数の計	4

**修得単位数の総計**

65
----

各教科の学習成績の状況

学習成績情報

教科名	国語
カリキュラム年度	2018
試験元教科コード	S01
試験元教科名	国語
学習成績の状況	3.5

全体の学習成績の状況

3.5
-----

学習成績概評

段階

2
---

成績段階別人数

A	20
B	30
C	40
D	60
E	5
合計人数	155

総合的な学習の時間の内容-評価

活動内容

取組状況：***** 成果：*****
---------------------

評価

1年次 がんばりました2年次 がんばりました
------------------------

特別活動の記録

記録内容

学年	H1
処理年度	2017
所見	体育祭委員 TOEIC 640点

指導上参考となる諸事項

記録内容

学年	H1	
処理年度	2017	
学習における特徴等	所見	学習における特徴等の所見**学習における特徴等の所見**
行動の特徴・特技等	所見	行動の特徴・特技等の所見**行動の特徴・特技等の所見**
部活動・ボランティア活動・留学・海外経験等	所見	部活動・ボランティア活動・留学・海外経験等の所見**
取得資格・検定等	所見	取得資格・検定等の所見**
表彰・顕彰等の記録	所見	表彰・顕彰等の記録の所見**
その他	所見	その他の所見**その他の所見**その他の所見**その他の所見**

備考

所見

備考所見**備考所見**備考所見**備考所見**備考所見**備考所見**備考所見**
--

**出欠の記録****記録内容**

学年	H1
処理年度	2017
授業日数	180
出席停止・忌引き等の日数	5
留学中の授業日数	0
出席しなければならぬ日数	175
欠席日数	7
出席日数	168
備考	病欠 (3)、忌引 (4)

**作成者情報****学校名**

東京都立第3中学校

**学校所在地情報**

郵便番号	0000000
住所	東京都中央区本町2丁目
電話番号	0000000000

**校長名**

伊達直人

**記載責任者役職**

主幹教諭

**記載責任者名**

若月ルリ子

**署名年月日**

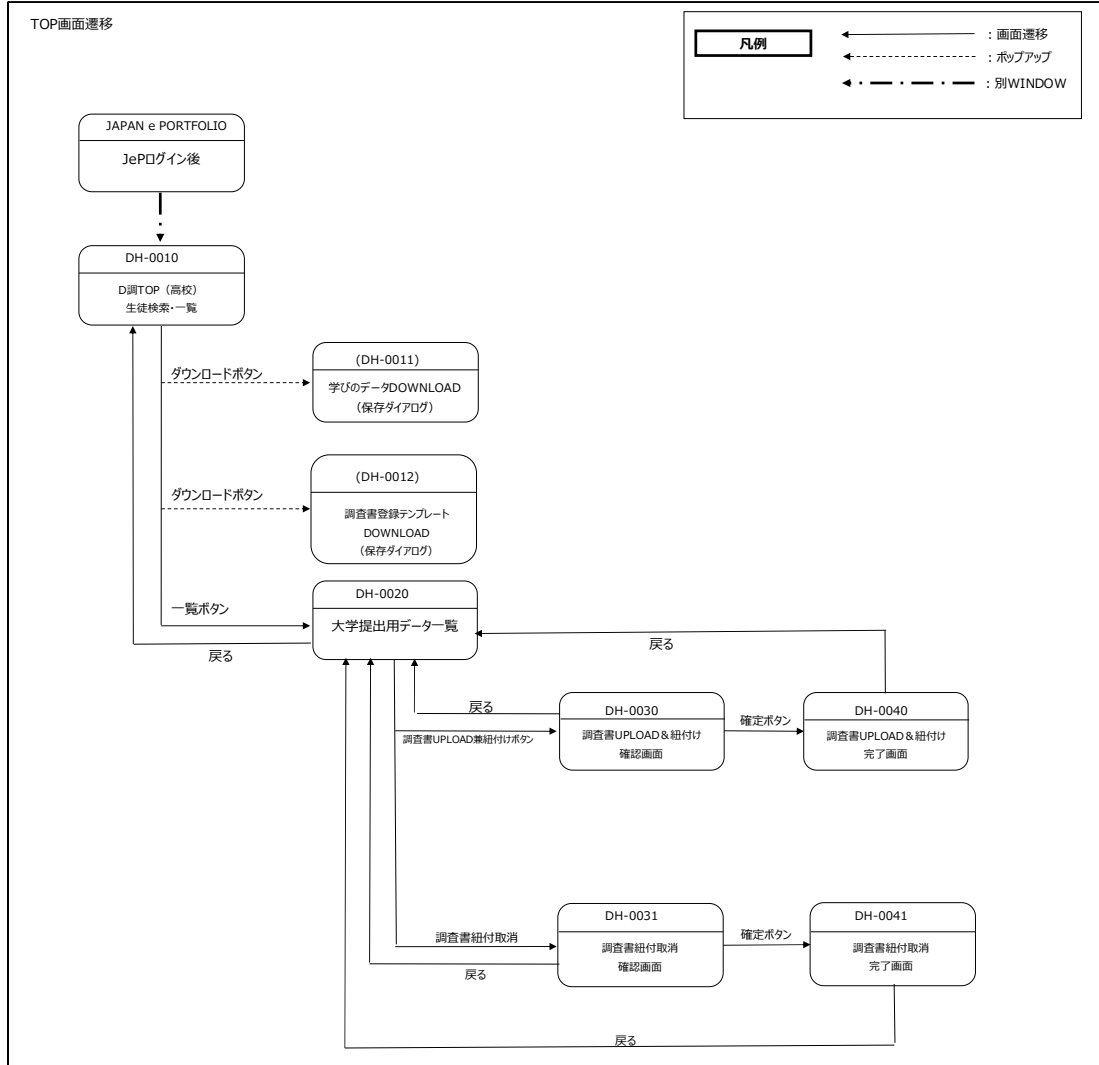
2019-10-01

よくあるご質問 | 利用規約

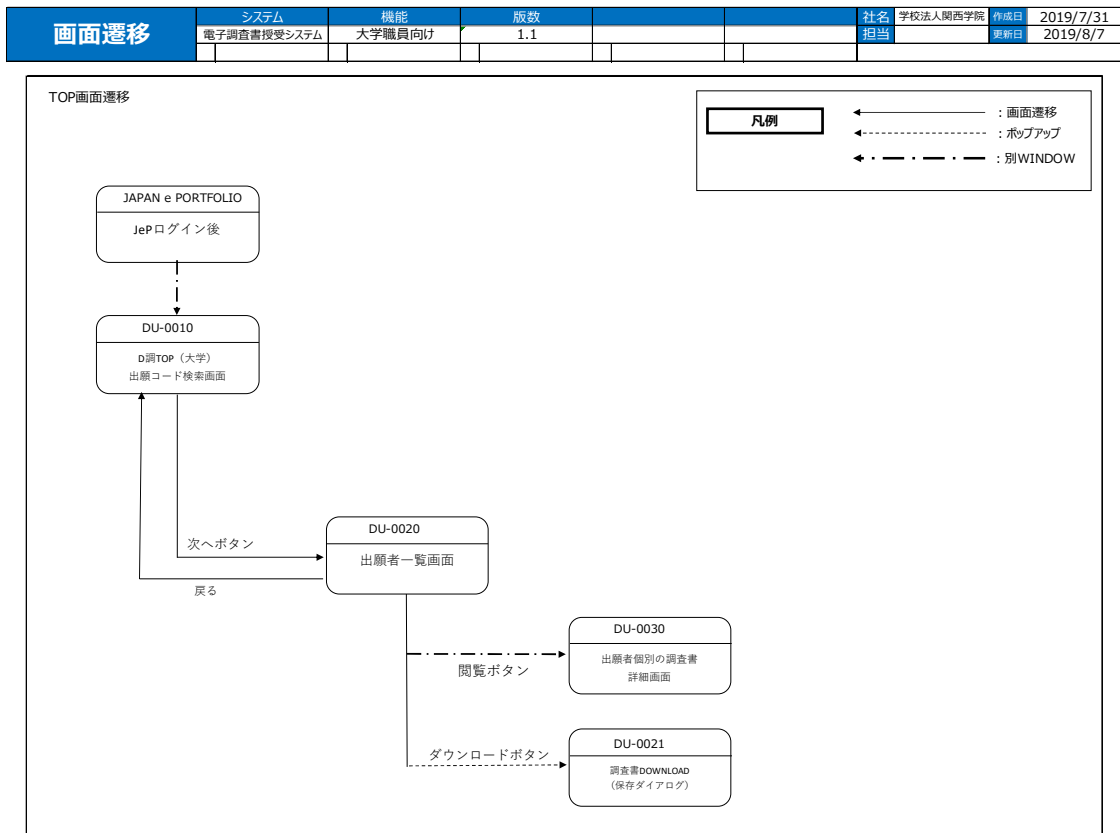
運営：文部科学省大学入学選抜改革推進委託事業

資料⑪-1 システム画面遷移図(高校)

画面遷移		システム	機能	版数	社名	学校法人関西学院	作成日	2019/7/31
		電子調査書授受システム	高校教員向け	1.1	担当		更新日	2019/8/7



資料⑪-2 システム画面遷移図(大学)



## 資料⑫電子調査書作成支援ツール(画面イメージ)

ver:20200329\_01

### ■ 調査書データ作成支援ツールの使い方

- ①入力シートは9シートあります。
- ②生徒1名の調査書情報を登録してください（複数の生徒一括登録は不可）
- ③各シートに調査書情報を入力してください
- ④「入力内容チェック」ボタンを押下すると入力内容をチェックして、チェック結果欄にメッセージを表示します。  
メッセージを確認して、各シートの入力内容を修正してください。
- ⑤チェック結果欄がすべて「OK」の表示になったら「電子調査書ファイル出力」ボタンを押下して  
電子調査書システム登録用の調査書ファイル（XML形式）を出力します。
- ⑥電子調査書システムのサイトにアクセスして、⑤で出力したファイルを該当する生徒にアップロードしてください。

入力内容チェック

カテゴリ	チェック結果
学籍の記録	
学習の記録_学科共通	
学習の記録_専門学科	
学習の記録_総合など	
各教科の学習成績の状況	
学習成績概評	
各種所見・備考	
出欠の記録	
作成者情報	

電子調査書ファイル出力

項目		入力欄			
学籍の記録	生徒情報	氏名			
		ふりがな			
		生年月日			
		性別			
		現住所	住所		
	在学状況	学校情報	設置区分		
			学校種別		
			教育課程の区分		
			課程学科		
			学科区分1		
			学科区分2		
	異動状況	入学	入学年月日		
			編入学	編入学年月日	
				編入学時学年	
		転入学	転入学年月日		
			転入学時学年		
		卒業	種別		
年月日					

- ・氏名、ふりがなの姓と名の間には全角スペースを入れてください。
- ・性別・学校情報・卒業の各種区分は「コード表」シートを参照ください。
- ・各種日付は半角数字で、YYYY-MM-DD形式で入力してください。例) 2020-01-01
- ・異動状況の入学、編入学、転入学はいずれか1つに入力してください。

項目		入力欄1	入力欄2	入力欄3	入力欄4	入力欄5	
各学科に共通する各教科-科目	教科名						
	科目名						
	カリキュラム年度						
	読替元教科コード						
	読替元教科名						
	読替元科目コード						
	読替元科目名						
	評定情報	学年					
		処理年度					
		評定	前期				
			後期				
	通年						
	評定情報	学年					
		処理年度					
		評定	前期				
			後期				
	通年						
	評定情報	学年					
		処理年度					
		評定	前期				
			後期				
	通年						
	評定情報	学年					
処理年度							
評定		前期					
		後期					
	通年						
修得単位数の計							

- ・年度は西暦(半角数字4桁)で入力してください。
- ・学年は「コード表」シートを参照ください。
- ・入力欄の必須項目への入力が完了すると新しい入力欄が入力可能になります。
- ・登録が不要な学年の評定情報項目には何も記入しないでください。



項目		入力欄1	入力欄2	入力欄3	入力欄4	
主として専門学科 において開設され る各教科-科目	教科名					
	科目名					
	カリキュラム年度					
	読替元教科コード					
	読替元教科名					
	読替元科目コード					
	読替元科目名					
	評定情報	学年				
		処理年度				
		評定	前期			
			後期			
	通年					
	評定情報	学年				
		処理年度				
		評定	前期			
			後期			
	通年					
	評定情報	学年				
		処理年度				
		評定	前期			
			後期			
	通年					
	評定情報	学年				
処理年度						
評定		前期				
		後期				
	通年					
修得単位数の計						

- ・専門学科に該当がなければ登録は不要です。
- ・年度は西暦(半角数字4桁)で入力してください。
- ・学年は「コード表」シートを参照ください。
- ・入力欄の必須項目への入力が完了すると新しい行の入力欄が入力可能になります。
- ・登録が不要な学年の評定情報項目には何も記入しないでください。

項目		入力欄
総合的な学習の時間	修得単位数の計	
その他	名称	
	修得単位数の計	
その他	名称	
	修得単位数の計	
修得単位数の総計		

- ・修得単位数の総計には学科共通、専門学科を含むすべての修得単位数を入力してください。
- ・該当しない項目には何も記入しないでください。

項目		入力欄1	入力欄2
各教科の学習成績の状況	学習成績情報	教科名	国語
		カリキュラム年度	
		読替元教科コード	S01
		読替元教科名	国語
	学習成績の状況		地理歴史
全体の学習成績の状況			

- ・年度は西暦(半角数字4桁)で入力してください。
- ・教科の追加が必要な場合は入力欄11から左詰めでご使用ください。
- ・全体の学習成績の状況には全体の評定平均値を入力してください。
- ・該当しない項目には何も記入しないでください。

項目		入力欄	
学習成績概評	段階		
	成績段階別人数	A	
		B	
		C	
		D	
		E	
	合計人数		

項目		入力欄	
総合的な学習の時間の内容-評価	活動内容		
	評価		
特別活動の記録	記録内容	学年	
		処理年度	
		所見	
	記録内容	学年	
		処理年度	
		所見	
	記録内容	学年	
		処理年度	
		所見	
	記録内容	学年	
		処理年度	
		所見	
指導上参考となる諸事項	記録内容	学年	
		処理年度	
		学習における特徴等	所見
		行動の特徴-特技等	所見
		部活動-ボランティア活動-留学-海外経験等	所見
		取得資格-検定等	所見
		表彰-顕彰等の記録	所見
		その他	所見
	記録内容	学年	
		処理年度	
		学習における特徴等	所見
		行動の特徴-特技等	所見
		部活動-ボランティア活動-留学-海外経験等	所見
		取得資格-検定等	所見
		表彰-顕彰等の記録	所見
		その他	所見
	記録内容	学年	
		処理年度	
		学習における特徴等	所見
		行動の特徴-特技等	所見
		部活動-ボランティア活動-留学-海外経験等	所見
		取得資格-検定等	所見
		表彰-顕彰等の記録	所見
		その他	所見
	記録内容	学年	
		処理年度	
		学習における特徴等	所見
行動の特徴-特技等		所見	
部活動-ボランティア活動-留学-海外経験等		所見	
取得資格-検定等		所見	
表彰-顕彰等の記録		所見	
その他		所見	
備考	所見		

項目		入力欄	
出欠の記録	記録内容	学年	
		処理年度	
		授業日数	
		出席停止-忌引き等の日数	
		留学中の授業日数	
		出席しなければならない日数	
		欠席日数	
		出席日数	
		備考	
		備考	
	記録内容	学年	
		処理年度	
		授業日数	
		出席停止-忌引き等の日数	
		留学中の授業日数	
		出席しなければならない日数	
		欠席日数	
		出席日数	
		備考	
		備考	
	記録内容	学年	
		処理年度	
		授業日数	
		出席停止-忌引き等の日数	
		留学中の授業日数	
		出席しなければならない日数	
		欠席日数	
		出席日数	
		備考	
		備考	
	記録内容	学年	
		処理年度	
		授業日数	
		出席停止-忌引き等の日数	
		留学中の授業日数	
		出席しなければならない日数	
		欠席日数	
		出席日数	
		備考	
		備考	

項目		入力欄	
作成者情報	学校名		
	学校所在地情報	郵便番号	
		住所	
		電話番号	
	校長名		
	記載責任者役職		
	記載責任者名		
	署名年月日		

- ・郵便番号、電話番号にハイフンは含めず、半角数字で入力してください。  
例) 1001234、031234567
- ・校長名、記載責任者名の姓と名の間には全角スペースを入れてください。
- ・各種日付は半角数字で、YYYY-MM-DD形式で入力してください。例) 2020-01-01

教科コード	教科名	学科コード	教科名	学科名	*平成25年度新学習指導要領に基づくAPPLIC項目群に準拠	コード定義	コード	コード値の内容
S01	国語	S01-02	国語	国語総合		性別	1	男
S02	地理歴史	S01-04	国語	国語表現			2	女
S03	公民	S01-06	国語	現代文A		教育課程の区分	S1	学年制
S04	数学	S01-08	国語	現代文B			S2	単位制
S05	理科	S01-10	国語	古典A		学校設置区分	1	国立
S06	保健体育	S01-12	国語	古典B			2	公立
S07	芸術	S02-02	地理歴史	世界史A			3	市立
S08	外国語	S02-04	地理歴史	世界史B		学校種別	1	高等学校
S09	家庭	S02-06	地理歴史	日本史A			2	中等教育学校
S10	情報	S02-08	地理歴史	日本史B			3	特別支援学校
S11	総合的な学習の時間	S02-10	地理歴史	地理A			4	分校
S50	農業	S02-12	地理歴史	地理B		課程学科	1	全日制課程
S51	工業	S03-02	公民	現代社会			2	定時制課程
S52	商業	S03-04	公民	倫理			3	通信制課程
S53	水産	S03-06	公民	政治・経済			4	普通科
S54	家庭	S04-02	数学	数学Ⅰ			5	専門学科
S55	看護	S04-04	数学	数学Ⅱ			6	総合学科
S56	情報	S04-06	数学	数学Ⅲ		学年（転入、編入）	H1	高校第1学年
S57	福祉	S04-08	数学	数学A			H2	高校第2学年
S58	理数	S04-10	数学	数学B			H3	高校第3学年
S59	体育	S04-12	数学	数学活用			H4	高校第4学年
S60	音楽	S05-02	理科	科学と人間生活		年次	01	1年次
S61	美術	S05-04	理科	物理基礎			02	2年次
S62	英語	S05-06	理科	物理			03	3年次
		S05-08	理科	化学基礎			04	4年次
		S05-10	理科	化学			05	5年次
		S05-12	理科	生物基礎			06	6年次
		S05-14	理科	生物			07	7年次
		S05-16	理科	地学基礎			08	8年次
		S05-18	理科	地学			09	9年次
		S05-20	理科	理科課題研究			10	10年次
		S06-02	保健体育	体育		卒業種別	1	卒業
		S06-04	保健体育	保健			2	卒業見込
		S07-02	芸術	音楽Ⅰ				
		S07-04	芸術	音楽Ⅱ				
		S07-06	芸術	音楽Ⅲ				
		S07-08	芸術	美術Ⅰ				
		S07-10	芸術	美術Ⅱ				
		S07-12	芸術	美術Ⅲ				
		S07-14	芸術	工芸Ⅰ				
		S07-16	芸術	工芸Ⅱ				
		S07-18	芸術	工芸Ⅲ				
		S07-20	芸術	書道Ⅰ				
		S07-22	芸術	書道Ⅱ				
		S07-24	芸術	書道Ⅲ				
		S08-02	外国語	コミュニケーション英語基礎				
		S08-04	外国語	コミュニケーション英語Ⅰ				
		S08-06	外国語	コミュニケーション英語Ⅱ				
		S08-08	外国語	コミュニケーション英語Ⅲ				
		S08-10	外国語	英語表現Ⅰ				
		S08-12	外国語	英語表現Ⅱ				
		S08-14	外国語	英語会話				
		S09-02	家庭	家庭基礎				
		S09-04	家庭	家庭総合				
		S09-06	家庭	生活デザイン				
		S10-02	情報	社会と情報				
		S10-04	情報	情報の科学				
		S50-02	農業	農業と環境				
		S50-04	農業	課題研究				
		S50-06	農業	総合実習				
		S50-08	農業	農業情報処理				
		S50-10	農業	作物				
		S50-12	農業	野菜				
		S50-14	農業	果樹				
		S50-16	農業	草花				
		S50-18	農業	畜産				
		S50-20	農業	農業経営				
		S50-22	農業	農業機械				
		S50-24	農業	食品製造				
		S50-26	農業	食品化学				
		S50-28	農業	微生物利用				

		S50-30	農業	植物バイオテクノロジー				
		S50-32	農業	動物バイオテクノロジー				
		S50-34	農業	農業経済				
		S50-36	農業	食品流通				
		S50-38	農業	森林科学				
		S50-40	農業	森林経営				
		S50-42	農業	林産物利用				
		S50-44	農業	農業土木設計				
		S50-46	農業	農業土木施行				
		S50-48	農業	水循環				
		S50-50	農業	造園計画				
		S50-52	農業	造園技術				
		S50-54	農業	環境緑化材料				
		S50-56	農業	測量				
		S50-58	農業	生物活用				
		S50-60	農業	グリーンライフ				
		S51-02	工業	工業技術基礎				
		S51-03	工業	課題研究				
		S51-04	工業	実習				
		S51-05	工業	製図				
		S51-06	工業	工業数理基礎				
		S51-07	工業	工業技術基礎				
		S51-08	工業	材料技術基礎				
		S51-09	工業	生産システム技術				
		S51-10	工業	工業技術英語				
		S51-11	工業	工業管理技術				
		S51-12	工業	環境工学基礎				
		S51-14	工業	機械工作				
		S51-15	工業	機械設計				
		S51-16	工業	原動機				
		S51-18	工業	電子機械				
		S51-19	工業	電子機械応用				
		S51-20	工業	自動車工学				
		S51-21	工業	自動車整備				
		S51-22	工業	電気基礎				
		S51-23	工業	電気機器				
		S51-24	工業	電力技術				
		S51-25	工業	電子技術				
		S51-26	工業	電子回路				
		S51-27	工業	電子計測制御				
		S51-28	工業	通信技術				
		S51-30	工業	電子情報技術				
		S51-31	工業	プログラミング技術				
		S51-32	工業	ハードウェア技術				
		S51-33	工業	ソフトウェア技術				
		S51-34	工業	コンピュータシステム技術				
		S51-40	工業	建築構造				
		S51-41	工業	建築計画				
		S51-42	工業	建築構造設計				
		S51-43	工業	建築施行				
		S51-44	工業	建築法規				
		S51-45	工業	設備計画				
		S51-46	工業	空調調和設備				
		S51-47	工業	衛生・防災設備				
		S51-50	工業	測量				
		S51-51	工業	土木基礎力学				
		S51-52	工業	土木構造設計				
		S51-53	工業	土木施行				
		S51-54	工業	社会基礎工学				
		S51-60	工業	工業化学				
		S51-61	工業	化学工学				
		S51-62	工業	地球環境化学				
		S51-63	工業	材料製造技術				
		S51-64	工業	工業材料				
		S51-65	工業	材料加工				
		S51-66	工業	セラミック化学				
		S51-67	工業	セラミック技術				
		S51-68	工業	セラミック工業				
		S51-70	工業	繊維製品				
		S51-71	工業	繊維・染色技術				
		S51-72	工業	繊維デザイン				
		S51-80	工業	インテリア計画				

		S51-81	工業	インテリア装備				
		S51-82	工業	インテリアエレメント生産				
		S51-84	工業	デザイン技術				
		S51-85	工業	デザイン材料				
		S51-86	工業	デザイン史				
		S52-02	商業	ビジネス基礎				
		S52-04	商業	課題研究				
		S52-06	商業	総合実践				
		S52-08	商業	ビジネス実務				
		S52-10	商業	マーケティング				
		S52-12	商業	商品開発				
		S52-14	商業	広告と販売促進				
		S52-16	商業	ビジネス経済				
		S52-18	商業	ビジネス経済応用				
		S52-20	商業	経済活動と法				
		S52-22	商業	簿記				
		S52-24	商業	財務会計Ⅰ				
		S52-26	商業	財務会計Ⅱ				
		S52-28	商業	原価計算				
		S52-30	商業	管理会計				
		S52-32	商業	情報処理				
		S52-34	商業	ビジネス情報				
		S52-36	商業	電子商取引				
		S52-38	商業	プログラミング				
		S52-40	商業	ビジネス情報管理				
		S53-02	水産	水産海洋基礎				
		S53-04	水産	課題研究				
		S53-04	水産	総合実習				
		S53-06	水産	海洋情報技術				
		S53-08	水産	水産海洋科学				
		S53-10	水産	漁業				
		S53-12	水産	航海・計器				
		S53-14	水産	船舶運用				
		S53-16	水産	船用機関				
		S53-18	水産	機械設計工作				
		S53-20	水産	電気理論				
		S53-22	水産	移動体通信工学				
		S53-24	水産	海洋通信技術				
		S53-26	水産	資源増殖				
		S53-28	水産	海洋生物				
		S53-30	水産	海洋環境				
		S53-32	水産	小型船舶				
		S53-34	水産	食品製造				
		S53-36	水産	食品管理				
		S53-38	水産	水産流通				
		S53-40	水産	ダイビング				
		S53-42	水産	マリンスポーツ				
		S54-02	家庭	生活産業基礎				
		S54-04	家庭	課題研究				
		S54-06	家庭	生活産業情報				
		S54-08	家庭	消費生活				
		S54-10	家庭	子どもの発達と保育				
		S54-12	家庭	子ども文化				
		S54-14	家庭	生活と福祉				
		S54-16	家庭	リビングデザイン				
		S54-18	家庭	服飾文化				
		S54-20	家庭	ファッション造形基礎				
		S54-22	家庭	ファッション造形				
		S54-24	家庭	ファッションデザイン				
		S54-26	家庭	服飾手芸				
		S54-28	家庭	フードデザイン				
		S54-30	家庭	食文化				
		S54-32	家庭	調理				
		S54-34	家庭	栄養				
		S54-36	家庭	食品				
		S54-38	家庭	食品衛生				
		S54-40	家庭	公衆衛生				
		S55-02	看護	基礎看護				
		S55-04	看護	人休と看護				
		S55-06	看護	疾病と看護				
		S55-08	看護	生活と看護				
		S55-10	看護	成人看護				



		S55-12	看護	老年看護				
		S55-14	看護	精神看護				
		S55-16	看護	在宅看護				
		S55-18	看護	母性看護				
		S55-20	看護	小児看護				
		S55-22	看護	看護の統合と実践				
		S55-24	看護	看護臨地実習				
		S55^26	看護	看護情報活用				
		S56-02	情報	情報産業と社会				
		S56-04	情報	課題研究				
		S56-06	情報	情報の表現と管理				
		S56-08	情報	情報と問題解決				
		S56-10	情報	情報テクノロジー				
		S56-12	情報	アルゴリズムとプログラム				
		S56-14	情報	ネットワークシステム				
		S56-16	情報	データベース				
		S56-18	情報	情報システム実習				
		S56-20	情報	情報メディア				
		S56-22	情報	情報デザイン				
		S56-24	情報	表現メディアの編集と表現				
		S56-26	情報	情報コンテンツ実習				
		S57-02	福祉	社会福祉基礎				
		S57-04	福祉	介護福祉基礎				
		S57-06	福祉	コミュニケーション技術				
		S57-08	福祉	生活支援技術				
		S57-10	福祉	介護過程				
		S57-12	福祉	介護総合実習				
		S57-14	福祉	介護実習				
		S57-16	福祉	こころとからだの理解				
		S57-18	福祉	福祉情報活用				
		S58-02	理数	理数数学Ⅰ				
		S58-04	理数	理数数学Ⅱ				
		S58-06	理数	理数数学特論				
		S58-08	理数	理数物理				
		S58-10	理数	理数化学				
		S58-12	理数	理数生物				
		S58-14	理数	理数地学				
		S58-16	理数	課題研究				
		S59-02	体育	スポーツ概論				
		S59-04	体育	スポーツⅠ				
		S59-06	体育	スポーツⅡ				
		S59-08	体育	スポーツⅢ				
		S59-10	体育	スポーツⅣ				
		S59-12	体育	スポーツⅤ				
		S59-14	体育	スポーツⅥ				
		S59-16	体育	スポーツ総合演習				
		S60-02	音楽	音楽理論				
		S60-04	音楽	音楽史				
		S60-06	音楽	演奏研究				
		S60-08	音楽	ソルフェージュ				
		S60-10	音楽	声楽				
		S60-12	音楽	器楽				
		S60-14	音楽	作曲				
		S60-16	音楽	鑑賞研究				
		S61-02	美術	美術概論				
		S61-04	美術	美術史				
		S61-06	美術	素描				
		S61-08	美術	構成				
		S61-10	美術	絵画				
		S61-12	美術	版画				
		S61-14	美術	彫刻				
		S61-16	美術	ビジュアルデザイン				
		S61-18	美術	クラフトデザイン				
		S61-20	美術	情報メディアデザイン				
		S61-22	美術	映像表現				
		S61-24	美術	環境造形				
		S61-26	美術	鑑賞研究				
		S62-02	英語	総合英語				
		S62-04	英語	英語理解				
		S62-06	英語	英語表現				
		S62-08	英語	異文化理解				
		S62-10	英語	時事英語				

資料⑬各学校団体からの意見

①-1 電子調査書のフォーマットに関する御意見(フォーマット全般)

事項	関係団体からの意見
<b>フォーマット全般に関すること</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体を通して<b>項目数が多すぎる</b>。ごく少数の生徒にしか該当しないと思われる項目(留学・海外経験、ボランティア活動等)も含まれるため、項目を絞り、特筆すべき事柄がある場合は、「その他」でまとめてはどうか。【公大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒自身が作成する<b>ポートフォリオの事柄とも重複</b>すると思われ、整理が必要である。【公大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの<b>紙媒体による調査書よりも</b>、今回提案されている電子調査書フォーマットは<b>記載項目欄が多く</b>、短期大学側では、利用可能な項目の選択幅は広がるものと思われるが、一方で、記入側の高校教員の負担軽減のためのショーケースの利用等により、個人の実態を反映しているか見極めることが困難になるのではないか。効率化を求めるあまり、画一的な様式に統一された電子調査書で、果たして「学力の3要素」を的確に判断することができるのか不透明である。【私短協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査書の<b>記載項目が多すぎる</b>。調査書は指導要録に基づいて作成するものであり、指導要録に記載する内容に止めるべきである。また、<b>教育課程外の活動は、生徒本人が直接大学に提出すればよく、大学自らが合格証・表彰状等により確認すべき</b>である。生徒のすべての活動について、高校からの保証を求めることは無理がある。物理的に難しいし、記載項目が多すぎて点検もままならない。【全高長】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>項目の順番は指導要録・調査書の様式に合わせるべき</b>。入力の確認・点検等がやりにくい。【全校長】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員の働き方改革推進に伴い、指導要録の記載事項は簡素化すべきとの議論もあり、指導要録と指導要録からつくられる<b>調査書の記載事項は最低限に止めるべき</b>である。【全校長】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ショーケース」の<b>「学びのデータ」をすべて「先生」が「承認」することは物理的に難しい</b>。資格一つとっても、合格証書や実施団体、実施時期等の確認が必要である。校務システムに取り込むデータは、指導要録に記載する最低限の内容に止め、その他(特に教育課程外の活動)は生徒が直接大学に送付し、大学が確認すべきである。【全校長】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校にかかわる問題について</li> <li>② 入力作業にかかる学校負担はどこが担うのか。調査票は、当該受験年度の生徒分だけでなく、その生徒の1学年、2学年の情報入力はもとより、調査票を発行すべき過年度生の調査票情報の入力作業が発生するなど<b>膨大な作業量</b>となる。【私短協】</li> </ul>

次期学習指導要領に関すること	
	<p>・次期学習指導要領についての対応はどのように考えられているのでしょうか。次期指導要領下での指導要録は、観点別評価が加わる一方、「総合所見及び指導上参考となる諸事項」については要点を簡潔に記載する方向で検討が進んでいます。今回の電子調査書の構想では「指導上参考となる諸事項」についても細分化が進められているようですが、両者の改善の方向は一致するのでしょうか。【国大協】</p>
	<p>・「3、各教科の学習成績の状況」に関して、新学習指導要領の実施にともなって観点別評価を記載する指導要録(参考様式)が初等中等局長通知として発せられている(令和元年3月29日)。ついては3年後に入学する高1生から観点別評価を盛り込んだ指導要録を作成することになるため、文科省大学入試室では、この調査書の電子化方策においても、各教科の観点別評価を記載するか否かを事前に確定し公表しておく必要がある。</p> <p>学力の3要素を踏まえ、とくに主体的に学ぶ態度も含めて評価をするという前提で進められる新学習指導要領では、観点別評価は避けられないことと言える。ついてはこの電子化フォーマット計画においても観点別評価の導入について盛り込んでおく必要があり、少なくとも生徒が大学受験に臨む高3になって確定する事項ではない。【中高連】</p>
	<p>・(前略)</p> <p>なお、新学習指導要領においては、(意見①)に記載の通りすでに対応する指導要録(参考様式)が発表されており、この新様式における「特別活動の記録」の欄は、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事の3つについて、学校が定める観点別指標に関して、特に優れた成果が見られる場合に○を付すという方策としている。</p> <p>ついては、各項目に関する内容というより、それらによって育まれた資質・能力に着目する記録であり、生徒の活動を電子化フォーマットの情報により総和しても、単純には評価できないものとしている点に留意すべきである。高校や受験生から、真に公正公平であるか指摘される可能性がある。【中高連】</p>

## ①-2電子調査書のフォーマットに関する御意見(項目別)

事項	関係団体からの意見
発行番号・発行年月日	・「発行番号」とはイメージ図で示されている「調査書コード」を指すのでしょうか。(「調査書コード」のレコードが必要なのではないかと、という趣旨です。【公大協】)
1.基本情報	《生徒情報》
	・生徒情報は、生徒が作成する入学志願票と重複する箇所もあり、個人情報の記載は必要最低限にしてはどうか。【公大協】
	・性別の選択肢が男女しかないのは将来的に問題になるように思われるため、何らかの配慮が必要かと思われる。【公大協】
	・現住所の「住所コード」及び「郵便番号」は必須の情報とは思えないので、住所から自動検索されたい。高校の教員が手入力するのは負担が大きクミスも生じる。【全校長】
	・「生徒情報」の欄に、入学種別「転・編入」は複数回に対応できる欄を用意する必要があると考える。【教育長】
	《高校情報》
	・高校情報の「高校コード」は必須の情報とは思えないので、住所から自動検索されたい。高校の教員が手入力するのは負担が大きクミスも生じる。【全校長】
	・「学校所在地の住所コード」及び「郵便番号」も必須の情報とは思えないので、住所から自動検索されたい。【全校長】
	・高校情報の学校種別の「4:分校」はあえて必要か。【公大協】
	・「学校種別」の列に「分校」という選択肢があるが、「分校」は、ここで言う「学校種別」には通常は含めないで、削除するか、あるいは、外国人学校なども想定して、「その他」としてはどうか。また、英語検定試験の活用などに向けて、「離島・へき地」に対する特別な配慮が意図されているのならば、独立した項目として調査するべきである。【私大連】
	・「4:分校」の選択肢については、高等学校や特別支援学校等の区分が必要であることから、複数選択が可能となる様式が必要であると考えます。【教育長】
	・学校区分は、「全日制、定時制、通信制」をプルダウンにすべき。現行の案では、定時制や通信制が排除されてしまう。その上で、「学科区分」を作り、「普通科、専門教育、総合学科」をプルダウンにすべき。【国大協】
	・学校区分について、「1:全日制」「2:専門」「3:総合」の区分はおかしいのでは。「全日制」に対応するのは「定時制・通信制」では?「専門・総合」に対応するのは、「普通」ではないか。【公大協】
	・「学校区分」(1頁・25行)の箇所では、『1:全日制、2:専門、3:総合』となっているが、『1:全日制、2:定時、3:通信』ではないか。【私大連】
	・「教育課程区分」の追加が必要ではないか。『1:普通、2:専門、3:総合』【私大連】
	・「学校区分」の選択肢については、教育課程上の区分として『全日制、定時制、通信制』とし、次項目に学科上の区分として『普通科、専門学科、総合学科』の選択肢を設ける等、分けて選択する必要があると考える。【教育長】
	・「単位制/学年制」の順番だが、プルダウンでは「学年制」、「単位制」と順番が逆になっている。誤入力の誘因となるので、順番を揃えてはどうか。【私大連】
	・高校情報の「学校区分」、「単位制/学年制」は、「学科」、「課程」の誤りではないか。【全校長】
	・専門学科には電気科や工業科等様々な学科がある。また、普通科等にはコースを設置している高等学校もあることから、具体的な学科・コースを入力する欄を設ける必要があると考える。【教育長】
	・高校情報/学校連絡先の「学校E-mailアドレス」は不要ではないか。調査書に関する連絡をメールでやり取りすることは想定できない。【全校長】
	・記載責任者の職名について、「校長」ではなく「学校長」はおかしいのでは。また、記載責任者の役職をあえて記載させなくともよいのではないか。【公大協】
	・2学期制、3学期制の区別を調査する必要はないか。【私大連】
	・転入学等の場合、前籍校等の情報を入力できる欄を設けること。【私短協】

<b>2. 各教科・科目等の学習の記録</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科・科目等の学習の記録の「教科コード」、「科目コード」は高校の教員が入力するものではない。【全校長】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>単位制高等学校等では、学年制を取っていない場合があるため、「第1学年」等の表記については、「第1学年(1年次)」等と記載すべきであると考え。【教育長】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校設定教科・科目はどのように扱うのか資料から読み取れない。【全校長】</li> </ul>
<b>《評定》</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>評定については、「第1学年」から「第4学年」が用意されているが、定時制、通信制の場合には、それ以上があり得る。したがって、柔軟に増やせるようにデータベースを設計すべきだと思われる。</li> <li>その他の項目でも第4学年までしか用意されていないカラム(例えば、「出欠の記録」や「指導上参考となる諸事項」の「学習における特徴等」や「行動の特徴、特技」など)でも同様のことが言えるのではないと思われる。【国大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科の学習成績の状況のフォーマットでは、履修学年が不明である。【国大協】</li> </ul>
<b>3. 各教科の学習成績の状況</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科の学習成績の状況はどのように扱うのか資料から読み取れない。【全校長】</li> </ul>
<b>4. 学習成績概評</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「4. 学習成績概評」の段階としてプルダウン選択肢の項に「1:A、2:B、3:C、4:D、5:E」とあるが、平成33年度以降の調査書に関する調査書記入上の留意事項等にもこれまで同様に大学が希望する場合(Aを表示することができる、とあるので「A」に対応する選択肢(コード)を設ける必要があるのではないかと。【国大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな調査書では、成績概評でAはなくなる設計でしてでしょうか。【公大協】</li> </ul>
<b>共通(「5. 総合的な学習の時間」「6. 特別活動の記録」「7. 指導上参考となる諸事項」)</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>階層1の「5. 総合的な学習の時間」「6. 特別活動の記録」「7. 指導上参考となる諸事項」について<b>項目の設定が細かすぎる</b>と思います。とりわけ階層7あたりの入力項目は限定しすぎ、定め過ぎのように思います。結果的に実際の生徒の活動と入力事項との照らし合わせの労が大きくなり、自由記述欄の使用が増えてしまうのではないのでしょうか。また、この入力項目に沿った活動を実施すればよいという機運を助長することにならないのでしょうか。【国大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「活動内容」の中の探究活動では、生徒が入力するポートフォリオ・ショーケースからデータを読み込む形となると考えられるが、<b>教員が作成する指導要録との整合性を図る必要があると考えられる。</b></li> <li>例えば、フィールドスタディの「開始日」や「終了日」をそもそも指導要録に記載するようになってくるのか、など。このことは、他の活動等(例えば「6. 特別活動の記録」における役職者としての就任年月日や退任年月日)の記載においても同様で、調査書は学校がオーサライズしたものであるため、生徒が入力した内容が間違っていないかどうかを教員が確認する必要があると思われるが、その拠り所となる指導要録に該当する情報がなければ、確認のしようがない恐れがある。【国大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>現行の調査書と比べ、「特別活動」「総合的な学習の時間」「指導上参考となる諸事項」の項目について、それぞれかなり細分化されている</b>ことから、高校側にとって負担が増す恐れがあるため、入力項目を減らしたり、統合してまとめて入力できるようにしてはどうか。</li> <li>また、細分化された具体項目について、それを埋める(入力)するために、項目に合わせた活動をする状況が想定され、『主体性等を評価する』という本来の趣旨と乖離が生じる恐れはないか。【公大協】</li> </ul>

5.総合的な学習の時間の内容・評価	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「5.総合的な学習の時間の内容・評価」という表記は「総合的な探究の時間の内容・評価」が正しいのではないかと。【国大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成31年4月1日以降に高等学校に入学した生徒については、「総合的な探究の時間」が適用されていることから、本記載のほか、「総合的な探究の時間の内容・評価」も加える必要があると考える。【教育長】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「内容」「自由記述」「所見」等、記載責任者が自由に記述する項目での文字数を決めてはどうか。「自由」というのは、一見すると望ましいように感じられるが、実際にはそうではない。たとえば、200文字等、コンパクトに端的に書くことを求める方がよいと考える。そのような求めにより、教員は生徒に対して内容、記録の分量等について具体的に指示でき、教員の負担も生徒の不安も軽減する。大学側としても、文字数が少なく内容が端的であれば、読む作業の負担が軽減する。【国大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般的な探究活動の内容及び一般的な評価については、文字入力ではなく選択入力とし、その他の特記事項について文字入力とすることが望ましい。【公大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「探究活動」の内容として記載するケースは、「フィールドスタディ」、「論文」、「コンクール・コンテスト・大会の結果」だけでよいか。ほかにも「文献学習」等、考慮に入れてもよい活動形態があると思われるがどのような基準で記載しているのか。【国大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「活動内容」に「コンクール・コンテスト・大会の結果」欄があるが、これらが正課である総合的な学習の時間の情報としては不適切。「7.指導上参考となる諸事項」に移動。【国大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間の「活動内容」は学校によって多岐にわたり、資料の「探究活動」、「論文」の欄のように記載できない。「コンクール・コンテスト・大会の結果」のほとんどは、総合的な学習の時間の活動内容ではないのではないかと。【全高長】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「活動内容」の中の探究活動の「コンクール・コンテスト・大会の結果」の項には、大会の規模の項目が必要ではないかと。ポートフォリオ・ショーケースには、項目が設定されているのではないかと。【国大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究活動のコンクール・コンテスト・大会の結果に、「大会等の規模」が選択できれば当該項目を客観的に評価しやすいと考えられる。【公大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究活動の論文に「学内外での発表の有無」といった項目が選択できれば当該項目を客観的に評価しやすいと考えられる。【公大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現行の調査書にも現在公表されている改正案にも含まれていない内容(例えば「5.総合的な学習の時間」の内容・評価→活動内容→探究活動の下にある「授業名・プログラム名」「研究テーマ」「フィールドスタディ」「論文」「コンクール・コンテスト・大会の結果」)がフォーマットに含まれている。この部分について固定されるのか、学校が随時作成することができるのかなどの説明が必要ではないかと。【国大協】</li> </ul>
6.特別活動の記録	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「6.特別活動の記録」、「7.指導上参考となる事項」に列挙されている各項目については、指導要録や紙ベースの調査書(改訂版)の項目に記載する「文字表記」のままのデータ入力が適切ではないかと。各高校の教師が指導要録以外のデータベースから調査書を作成することになるため、煩雑であるというより適切とは言えない。(後略)【中高連】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事は不要ではないかと。【公大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別活動の記録の項目分類が細かすぎる。現行程度に止めるべき。【全高長】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・項目立ては、学習指導要領の項目に準拠すべきではないでしょうか。まずその枠組みの中で入力項目を立て、必要に応じてその下位に活動・行事の項目を立てるべきではないでしょうか。【国大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会・委員会の役職については、学校全体の委員(全校委員)なのか学級の委員なのかの区別がつくような項目が必要と考えられる。高校によって多様な名称を用いており名称だけでは全校委員なのか学級内の委員なのか分からないことが多い。もし、ポートフォリオ・ショーケースにその項目がないのであれば、追加をしていただきたい。【国大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会の役職名については文字入力ではなく選択入力(マスタから選択する方式)が調査書作成者の労力を削減する観点から望ましいと考える。【公大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「表彰」という文言があるが、「表彰」は9頁4行目にもあり、回答者に混乱を与える恐れがあるので、4頁の「表彰」を削除してはどうか。【私大連】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・階層5に「ホームルーム活動」を追加する必要があると考える。【教育長】</li> </ul>



	<p>7. 指導上参考となる諸事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指導上参考となる諸事項において<b>エビデンスの提供</b>についてはどのように検討しているのか。【公大協】</li> </ul>
	<p>《(1)学習における特徴等及び(2)行動の特徴、特技》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文字形式が数値となっているが、文字形式とするほうが適切ではないか。その際には、内容やイメージも示していただきたい。【国大協】</li> <li>「文字形式」が数値となっているが、文字による表現ではないのか。【公大協】</li> <li>「(1)学習における特徴等」及び「(2)行動の特徴、特技」については、入力形式が数値であるが、入力形式は文字として、自由に記述できるようにすべきであるとする。【教育長】</li> </ul>
	<p>《(3)部活動、ボランティア活動、留学・海外経験等》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>部活動の記録の項目分類が細かすぎる。生徒本人が大学に申請し、<b>大学が確認すべき様な内容</b>ではないか。ボランティア活動も部活動に同じ。【全校長】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「総合的な学習の時間の内容・評価」と同様に、大会・コンクールの結果、役職の履歴についても<b>文字入力ではなく選択入力</b>とし、その他の特記事項について文字入力とすることが望ましい。【公大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒たちの主体性をアピールするために、ボランティア活動が学校行事に組み込まれ、形だけのボランティア活動になることも危惧され、本来の善意な活動が見えなくなる可能性もある。 調査書に記された文言をどのように評価していくのかを整理する必要がある。【国大協】</li> <li>例えば6頁・40行目は「部活動名」となっているが、単なるボランティアの「活動名」ではないか。部の活動としてのボランティア活動であるのか個人の活動としてのボランティア活動であるのかの区別がつくような記載項目にする必要がある。また、「役職の履歴」、「雑誌新聞等の記事」、「大会・コンクールの結果」は、ボランティア活動の内容との関連があまりないように思われる。</li> <li>「部活動名」という表記は、「ボランティア活動名」という表記が正しいのではないか。また、「ボランティア活動名」の「活動時間」については、1日の時間数なのか、延べでの時間数なのか明記されておらず、記載者で解釈が違う可能性がある。一目で判断できるように「延べ活動時間」としてはどうか。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「7. 指導上参考となる諸事項」の「ボランティア活動」の下位項目に「大会・コンクールの結果」とあるが、<b>ボランティア活動にそのような「競争」はなじまない</b>。もちろん、活動報告会はあるかもしれないが、「順位・成績」欄があり、ボランティア活動の趣旨に反する項目。【国大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「役職の履歴」や「雑誌新聞等の記事」とは特定のボランティアの結果としてあるもののように思えるので、<b>ボランティア活動の項において、もっと整理すべきではないか</b>。 また項目名の立て方で「大会・コンクールの結果」などとすると他の活動(例えば部活)などとの区別が難しい。 さらにボランティアを部活として行うというケースも考えられはするので、<b>部活動とボランティアの境界を明確にすべき</b>であると思われる。これは次の「語学・海外経験等」にも同じことが言え、「海外コンクール・大会の結果」と「部活動」とが重なることも考えられるのではないかとと思われる。【国大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ボランティア活動」における「部活動名」(階層5)については、個人や校外組織における活動が評価された場合を想定して、「部活動等」の表記にすべきであるとする。【教育長】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>現行の調査書にも現在公表されている改正案にも含まれていない内容(例えば「5. 総合的な学習の時間」の内容・評価→活動内容→探究活動の下にある「授業名・プログラム名」「研究テーマ」「フィールドスタディ」「論文」「コンクール・コンテスト・大会の結果」)が<b>フォーマットに含まれている</b>。この部分について固定されるのか、学校が随時作成することができるのかなどの説明が必要ではないか。【国大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「部活動」、「ボランティア活動」、「留学・海外経験等」を第2階層にまとめてあるが、かなり異質な活動なので、<b>将来のデータ分析に備えて、それぞれを第2階層で独立項目として扱ってはどうか</b>。【私大連】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ボランティア活動」の筆頭調査項目に「部活動名」があるが、<b>同じ第2階層の「部活動」と混乱するので、削除してはどうか</b>。「部活動」として行った「ボランティア活動」は、「部活動」として回答する。【私大連】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「海外コンクール・大会の結果」があるが、<b>国際的な活動を評価するのであれば、その実施場所が国内、海外を問わなくても良い</b>。何を評価するのかを明確にすべき。【国大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「海外経験」の項目に「国内」イベントを含めている。教育的意図は理解できないわけではないが、<b>粉飾回答を誘発し、若者の「海外経験」の実態を正確に把握する妨げになる可能性が高いので、削除してはどうか</b>。【私大連】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「留学・海外経験等」も調査書には現行どおりの記載に止め、<b>細かい内容は、生徒本人が大学に申請し、大学が確認すべきことではないか</b>。調査書に、「留学・海外経験等」の項目はない。【全校長】</li> </ul>
	<p>《(4)資格取得、検定等》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>専門学科においては、類似の資格・検定が多いため、資格検定名だけでなく、<b>主催団体も入力できるようにすべき</b>であるとする。【教育長】</li> </ul>
<p>8. 備考</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「8備考」が「9出欠の記録」の前にあるのはなぜだろうか。「7指導上参考となる諸事項」を補足する項目として配置したのか、それとも違う意味があるのか、意図が分からない。【公大協】</li> </ul>
<p>9. 出欠の記録</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>欠席の理由などが記載されている「備考」欄の設定がないが、本学では参考にするところがあるので、ぜひ設けていただきたい。【公大協】</li> <li>「9. 出欠の記録」に、欠席事由等(欠席が多い場合等)を入力する「備考」欄を設けること。【私短協】</li> <li>必要に応じて、欠席等の理由が記入できるよう、<b>備考欄を設ける必要がある</b>とする。【教育長】</li> <li>出欠の記録の「授業日数」等と「学年」の階層を逆にしてはどうか。現場では学年ごとに、授業日数、欠席日数等を確認していくので。【全校長】</li> </ul>

## ②大学入学者選抜改革推進委託事業に関する御意見

事項	関係団体からの意見
事業全般に関すること	
	《委託事業の進め方》
	<ul style="list-style-type: none"> <li>入試においては、1つのミスが大学全体の信用を失墜する。もう一度、<b>システム、セキュリティ、管理体制など全ての面において再考されるよう要望</b>する。【私短協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで以上に、3年間の活動の記録は重要度が増すと高等学校現場は考えるであろうから、現在提案されている記録方法では、高校の教員に過度の負担を強いると思われる、学校現場からの負担増に対する不満の出ることが予想される。<b>簡便で信頼性のある記録・記載方法を、高等学校現場と協力をして丁寧に作り上げることが必要</b>であると思う。【国大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在、文科省の委託事業として関西学院大学、佐賀大学、同志社大学が中心になって電子調査書の検討が進められています。全国の教育委員会へのアンケート結果も踏まえながら調査研究されていると思いますが、<b>できるだけ早い時期から高校教員も幅広く参画して調査研究することがとても重要</b>だと考えます。【国大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>このたび、調査書の電子化に関する調査研究を委託されたグループより、「電子調査書のフォーマット(案)」が示されたが、フォーマット化にあたっては、<b>大学関係者のみならず、高校関係者やITの専門家等の意見も傾聴し、現在、書面で行われている調査書の信頼性・内容等が棄損されないようにするとともに、個人情報の保護など大学入学希望者等に対して不利益を生じさせることのない慎重な設計</b>をお願いしたい。【私大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>高等学校は学校の種類も多岐にわたるので、調査書のフォーマットについては、様々な学校の関係者から広く意見を求めた方がよい。</b>【全校長】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>システムイメージでは、<b>高校生の入力</b>が求められている、そのため<b>不正防止の方策が必須</b>である。また、現状その作業を高校生が行っていないことから、<b>その作業の習熟の期間が必要</b>となる。したがって、試験運用の期間が求められ、2020年度より実証する際は、<b>高校生に対する調査も実施することが望ましい。</b>【公大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校にかかわる問題について</li> <li>④ 高校側と受験校である大学、短期大学等との意見聴取がなされていない。システム導入後の<b>高校側からの課題と受験校(大学等)からの課題のすり合わせがなければ、一斉導入は困難</b>と言わざるを得ない。【私短協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>現行では学校長印および記載責任者印が求められているが、<b>電子化に伴い押印の省略が必要</b>になってくる。<b>その場合の信頼性を担保する方法は早急に決定する必要がある。</b>【国大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで、高等学校長の押印と調査書の厳封によって、情報の保護が確保されている環境にあった。これを電子調査書に変える際に、<b>最終的な調査書の責任の所在と情報の保護をどのような形で担保(明示)するか、高等学校と大学に丁寧な説明が必要</b>であり、実施にあたっての安心感を提供することが重要だと考える。【国大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>個人情報の保護</b>について、各県教委は国のガイドラインに則り県単独のガイドラインを作成し、各学校も県のガイドラインに則り学校独自のガイドラインを作成し運用している。学校で作成する<b>調査書は学校管理下</b>にあり、<b>その責任の所在は学校長</b>にある。一方、<b>ポートフォリオ</b>に生徒が独自で記載して学校の指定するシステムに送信する情報は、<b>生徒の責任(保護者責任)</b>である。 したがって、<b>生徒がポートフォリオの情報をシステムに送る場合は、各々の情報毎に保護者の承認が必要になると現状では解釈される。</b> 現在、ベネッセのクラッシーなどのシステムが売り出されているが、<b>そもそも調査書などの公文書作成において、民間のクラウドを利用することについては、県のセキュリティーポリシーに沿うものかどうかを審査する必要がある。</b> したがって、これからは<b>相互のセキュリティーポリシーの緩和が必要</b>になるだろう。一方、セキュリティーポリシーが緩和され、生徒が各家庭や個人の端末から情報を送信する際には、<b>ウイルスなどの危険をどのように回避するかが課題</b>となる。 生徒個人がポートフォリオシステムに料金を支払い契約することに問題はないものの、データ保存先にある公的資産の成績や評価が盗まれたり改ざんされたりしないという保障は極めて重要である。これらのインフラの整備を進めていくべきである。【国大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査書は個人情報であり、都道府県・市町村および高校の属性(国立、公立、私立)によって調査書にかかる<b>個人情報保護の規則や方法が大きく異なる</b>。日本全国の高等学校の個人情報の取り扱いの承認を得た上で一律に取り扱えるようにして、<b>これらの電子データを取り纏めるシステムが現在示されている工程で本当に構築できるのか?</b> 此度の英語外部認定試験の導入延期のようなことがあってはならないので、実現可能な方法と工程を深く議論して工程を計画すべきである。【国大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>本学ではすべての入学者選抜において、調査書等を参考にしながらプレゼンテーションを含む面接で、学力の3要素である「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価してきており、電子調査書に変更した場合でも、この基本方針は変わりません。今回ご提示のあった電子調査書の内容については、今までは必ずしも十分ではなかった生徒の多様な学びの過程を把握できることは評価するが、<b>生徒が直接記入したe-ポートフォリオの内容評価や電子調査書に対応していない既卒生の扱いなどの課題</b>もあります。【国大協】</li> </ul>



	<p>《委託事業の範囲》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>校務システムと電子調査書授受システムは一体として開発すべき</b>である。校務システムを学校（設置者）が開発するのであれば、調査書に必要な最低限のデータを生徒から直接集めればよいので、そもそも「ショーケース」は不要である。【全校長】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>校務システムを各設置者が開発するのは、非効率で負担も大きい</b>。これまでも、校務システムと調査書システムを一体として開発するよう意見してきたが、原案では、電子調査書システムはただの「授受システム」になっている。【全校長】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調査書の提出様式だけをxml形式で定め、<b>調査書を作成する校務システムを設置者任せにするのでは、高校側は負担が増すだけ</b>である。 条件を満たす校務システムを安価に開発できる業者が数多くあるとは思えず、特定の一部業者に頼らざるを得なくなるのではないか。【全校長】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今回は、入力情報についての照会であったが、<b>今後は、大学での出力様式や利活用の仕方についても、調査、開発し、情報提供されるのか</b>。あるいは、大学にはXML形式で提供されるので、その後は各大学でお考えください、ということなのか。【国大協】</li> </ul>
	<p>《全面的に導入された際のシステムイメージ》</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 以下の意見は、<b>実証事業を踏まえて、システムの構成を再検討し、それに伴って調査書のフォーマットを見直すことを前提に</b>回答する。 実証事業第2フェーズにおける調査書フォーマットに対する意見であり、今回の意見集約で調査書フォーマットが決定されるものではない。残念ながら、<b>大学側の調査書活用の利便性が優先</b>されており、<b>調査書を作成する高校側の事情が考慮されているとは受け止められない</b>。調査書のフォーマットを決める前に、実証事業の成果検証を踏まえて<b>システムの全体構成を先に決める必要がある</b>。【全高長】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実証事業の成果検証を踏まえて、システム構成を再検討すべきである。調査書の全面電子化ありきで進めることは現場の混乱を招く。調査書のフォーマットよりも資料3の<b>システム全体構成（特にデータの流れ）を先に決めるべき</b>である。 実証事業の成果検証を経て、システムを開発していくことが前提であり、それに伴って調査書のフォーマットも変わっていくはずである。【全校長】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「<b>学びの記録</b>」に記載する内容を明確に定義するとともに、ショーケースに入力した活動の事実については、高校教員と高校生徒が相互に確認することとなっているため、<b>右囲み内にその旨を記載する必要がある</b>と考える。【教育長】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ システムイメージ図において、高等学校で作成した電子調査書(xml)を電子調査書授受(連携)システム側に送付する際に、すでに暗号化されたデータとして送付されるのかどうか不明。<b>高等学校から授受(連携)システムへ送付する段階で暗号化されている必要があるのではないか</b>。授受(連携)システムから大学側に送付する際も同様。【国大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電子調査書授受(連携)システム(仮称)大学出願システムのセキュリティの安全性が確実に保たれることが重要であるとする。【公大協】</li> </ul>
	<p>ポートフォリオ・ショーケースに関すること</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ポートフォリオ以外に、ポートフォリオ・ショーケース、キャリアパスポート、スタディログという用語が使われていますが、<b>相互の関連性を含めてもっと詳しい説明があれば、より理解しやすくなる</b>と考えます。【国大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「調査書データ(暗号化)」と「ポートフォリオショーケース(学びの成果)」の<b>関係性について、図示する必要がある</b>と考える。【教育長】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 民間業者が実施している<b>ポートフォリオと重複する部分が多い</b>ように思うが、どのように整理していくのか。【公大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ (前略)各大学が各項目の詳細を必要とする場合、ポートフォリオ・ショーケースの内容を確認することで十分ではないと思われる。これは、<b>生徒自身による活動報告書に記載すべきもの</b>であり、<b>教師に新たな労力と責任を負わせることのないようにする点でも基本的に重要</b>である。(後略)【中高連】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒が入力する「<b>学びの記録</b>」をeポートフォリオにアップロードするまでのプロセスで、<b>高校教員によるチェックというステップが必要ではないか</b>と思われる。【国大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ショーケース」に集めるような「<b>学びの成果</b>」は、<b>高校の承認を経ずとも、直接大学に送ればすむのではないか</b>。調査書の記載項目はどの大学を受験するときにも必要な最低限の項目にすべきである。大学のAP、CPIに基づき必要と思われる情報は、大学が出願時に直接志願者から集めればよく、合格証書、表彰状など裏付けとなるものも自ら確認すべきである。 提案のシステムでは、入試に必要なくてもすべての生徒の活動を高校が確認しなければならない。【全校長】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ショーケースにアクセスできる、生徒が入力するための「<b>学びの記録</b>」の<b>ポートフォリオシステムは何種類あるのか</b>。また、<b>生徒の費用負担はどの程度か</b>。【全校長】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ポートフォリオシステムを用いずに、「<b>電子調査書授受(連携)システム</b>」の「<b>ショーケース</b>」に<b>生徒が直接データを入力することができるのか</b>。特定の一部業者によるポートフォリオシステムを使用せざるを得ない状況になるのではないか。【全校長】</li> </ul>

業務計画	<p>《p3 ③ 各教育委員会等向けにセキュリティに関する実情調査》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今回の実情調査は、教育委員会だけが対象であるが、<b>今後私立高校(学校法人)にも調査を行う予定はあるのか。</b>(一番、状況が多様で、2023年度までに合意が得られるとは思えないが)【国大協】</li> <li>・ 高校にかかわる問題について</li> <li>③ 電子調査票に関する委託事業中間報告の中で、教育委員会等向けセキュリティに関する実情調査回答が添付されている。これによると、校務システムを利用しているところが81%などの回答となっているが、<b>調査対象教育委員会数や高校数などの実数表記がなされておらず、都道府県と政令指定都市のシステムが違うこと、さらに私立学校も各々のシステムがあることを考えると、全国の教育委員会や高校の実情を示しているのか、不明</b>である。【私短協】</li> </ul>
中間報告	<p>《p12 資料④下段の図》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新しいシステムでは、大学出願システムショーケースに生徒が入力した事実について、<b>生徒と先生が時間を合わせて相互に確認すること</b>とされている。このように何度も相互確認することなどの負担が担任教諭にとって重くなり、このステップについては、<b>各高校のマンパワーによって調査書の充実度に大きな差が出る</b>ことがあり得ると危惧する。【国大協】</li> </ul>
その他	<p>《印刷機能に関すること》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ フォーマットを拝見すると、受験生の行動をこと細かに記したデータを選抜に利用することを想定していると見受けられます。しかし、これらの些末で膨大なデータが選抜に必要とされるでしょうか。選抜において判断基準となるのは、受験生が自分の高校生活における行動をどのように認識し、それが3ポリシーで示されている大学の教育方針とどのように合致しているかです。受験生本人が自分の行動をどのように捉えているかが重要であり、これら微細なデータは本人が高校生活を振り返るための材料としては有用と思われるますが、データそのものは選抜において必ずしも必要ではありません。したがって、本フォーマットにあるような<b>微細で膨大なデータを提供いただいても、選抜には利用価値はありません。</b></li> <li>・ 以上の理由から、本学では調査書のデータを元にした点数化は想定しておりませんので、調査書は必ずしも電子データである必要はありません。</li> <li>・ むしろ、<b>面接の際に本人の認識を確認するための参考資料として利用するため、</b>面接員が利用する状況を考えると、今までどおり紙媒体の提出の方が適しています。電子データで提供されるとしても、<b>直ちに今までの形式で印刷可能であることが必須</b>です。</li> <li>・ もし、完全実施となった場合に、<b>今までのようなフォームの印刷は可能なのでしょうか。</b>印刷が不可能であれば、上記理由により調査書の電子化は断固反対です。【公大協】</li> <li>・ 本学では2021年度以降も調査書を紙媒体で利用しますので、<b>電子調査書データをWordに取り込み、印刷できるような仕組みの構築</b>を求めます。【公大協】</li> <li>・ 全体の項目数とも関係するが、提供されたフォーマットを大学にて復号後、出願受付作業、面接業務、合否判定作業において不便ではないような<b>書類として出力できる仕様としていただきたい。</b>例えばフォーマットのままの見た目では出力できないとすると、面接員の手元資料としては大変扱い難いことなどが予想される。他の作業においても可能な限りコンパクトになることが必須要件と考える。【公大協】</li> <li>・ 項目が多岐にわたっており、数も多いことから、<b>調査書を印刷する場合のイメージ図やフォントの大きさといった情報も必要</b>だと考える。項目を選んで印刷できるのであれば、その方法についての情報もほしいところである。なお、Windows やMac というように、どのOS でも扱える形式であるかどうかの情報もほしいところである。【公大協】</li> </ul> <p>《ダウンロード機能に関すること》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ダウンロードデータの取扱いについて</li> <li>・ 大学内のデータ管理について、推奨されるシステム・方法が提示されるのか。また、<b>データダウンロードの開始時期はいつ頃か、データの保存期間はどの程度なのか、</b>示されたい。【私短協】</li> </ul>

### ③調査書の電子化の進め方等に関する御意見

事項	関係団体からの意見
	<p><b>平成33年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告の改正について(調査書の見直し関連)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成33年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告の改正について(30文科高第370号 平成30年10月22日)の「II 調査書や提出書類等の改善について」に記載がある</li> </ul> <p>○ 調査書の様式は、現行では裏表の両面1枚となっているが、この制限を撤廃し、より弾力的に記載できるようにする。</p> <p>となっていることから、<b>調査書の付記事項(いわゆる裏面)が無制限となっていて、高校教員は混乱を来している。たくさん書いた方が合格しやすいと受け止められて、大部な書類を作成することになるであろう。これは高校側にも大学側にも良い状態とは思われない。</b></p> <p>また、受験生の能力よりも、<b>高校教員の作文能力で評価が変わる可能性が高く、公平性が担保されない。付記事項のページ数にも制限を設けるべきである。【国大協】</b></p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>そもそも調査書の電子化は、一般選抜において紙媒体の調査書を入学選抜で活用することが困難であることが背景の1つとなっている。その趣旨としては、単に紙媒体の記載内容を電子化するだけでなく、<b>調査書に記載される特別活動の記録等の内容が学校又は記載担当で異なることを統一的にコード化し、高校側での入力及び大学側での活用を簡素化することにあると考えている。</b></li> <li>全体的に一度に変更しなければ、調査書が紙媒体と電子データの2種類で送付され、事務が煩雑になる。</li> </ul> <p>参考資料2に示されているような<b>導入モデル地域や大学が既にあるのであれば、まずそこでシステムが機能するかどうか、問題がないかどうかを十分に検証して、その結果をもとに進めるべきである。</b></p> <p>その後、全国的に環境を整え一斉に変えるべきである。</p> <p>例えば、同一内容の教科であっても、科目名が高等学校によって異なっており、これらを一律に纏めるシステムになっていない。これは、公平性担保の阻害要因である。</p> <p>現在のフォーマットでは、この点を踏まえて「ショーケースとの連携」があると推測できるが、この点に分かりやすい補足説明を追加する必要がある。【国大協】</p>
	<p><b>調査書の電子化の進め方について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大学入試において調査書の活用(主体性等)を進めるのであるから、<b>活動の記録等の記載方法には各高等学校は極めてナーバスになると予想され、これまで以上にきめ細かい情報提供と認識の共有化を図る必要がある。現在の状況はまだ情報が少なく、高等学校現場に不安と混乱を招くと予想される。</b></li> </ul> <p>現に、業者による情報提供が先走りして、高校現場は振り回されている状況だという情報も届いている。<b>文部科学省・大学入試センターが主体となって情報提供の一元化を図る必要があるのではなからうか。【国大協】</b></p>
	<p><b>《1. 背景 1つ目の○》</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>インフラの整備に関して、長崎県の場合は<b>高速回線が不十分な離島地区がある。このような地区で校務支援システムが十分かどうか疑問</b>であり、業者のシステムをあらためて導入するには生徒負担などが発生し、先般の英語の問題と似たような格差が出る懸念がある。【国大協】</li> </ul>
	<p><b>《1. 背景 4つ目の○》</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高校で作成する調査書は、大学等の選抜や企業等への採用、奨学生選考のなど、様々な場面で重要な資料として幅広く活用されており、長年の作業の蓄積とともに、それぞれの場で一つのルーティーンワークに組み込まれた形として確立されている。</li> </ul> <p>したがって、一つのミスも許されない選考や選抜作業において、<b>急な変更は極めて危険と言わざるを得ない。</b>できれば、<b>時間に余裕をもって、共通テストが十分に機能することを見定めてから対応すべきである。</b></p> <p>調査書を電子化するにあたっては、そのシステムが当道府県および高等学校単位で一律に導入されるべきものである。ところが、高等学校の調査書は大学・短大に進学する者のみに使用されるものではない。我が国の大学・短大への進学率は57.9%(平成30年)であり、<b>およそ4割の高校生は電子調査書を必要としない場合が多いと判断</b>できる。</p> <p>大学入試への利用を前提とした現行の進め方は、<b>高等学校全体の調査書のあり方を本当に考慮したものなのか、はなはだ疑問</b>である。【国大協】</p>
	<p><b>《3. 課題》</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>セキュリティについて</b></li> </ul> <p>調査書の電子化に当たって、<b>セキュリティの問題は最重要課題</b>である。サイバーテロや自然災害時のシステムダウン、通信障害など、起こり得るリスクを十分に克服できる見通しのないままに、一律に電子化を進められることに大きな不安があると共に、ミス誘発する要因となり得る。</p> <p>「電子調査書授受(連携)システム(仮称)大学出願システム」をどこが管理するのか、どのようにセキュリティ管理を行うのか不明であり、問題なしとは言えない。民間機関が管理することになった場合、セキュリティ管理は困難なものとなる。独立行政法人大学入試センター等の<b>公的機関がシステム管理を行い、暗号化等の手立てを講じ、大学側が受験しようとする生徒のデータ開示を「閉鎖的」に可能とする方式にしなければ、全国的な大混乱を招きかねないことから、再考願いたい。</b></p> <p>大学におけるICTインフラやセキュリティ環境等については、1箇所でのミスが大きなトラブルの原因になる。統一的な規格や水準を示されたい。【私短協】</p>

	<p>《4. 調査書の電子化の進め方》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 制度の趣旨を理解し、円滑に実施していくため、教育委員会や学校を対象とした<b>説明会等の充実</b>に努めていただきたい。【教育長】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多様性を特徴とする私立大学のシステム整備状況には、各種の格差があるので、全面導入を控えて、さらに<b>詳細な工程を公表</b>し、合わせて<b>財政的・技術的支援方策をすみやかに策定</b>していただきたい。【私大連】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本システム(電子調査書)の全面的な導入は2022年度(令和4年度)からと発表されているが、資料は2021年度途中までの記載となっている。</li> <li>・ 実際の運用に当たり、<b>各都道府県が行うべき内容や全面的な導入までの詳細なスケジュールを具体的に示す</b>べきであるとする。【教育長】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電子調査書の<b>実証期間が短い</b>と考えられる。一般的に実証期間は、制度設計から原案作り、パイロット校(高校、大学)による検証作業、そしてこの検証作業におけるシステムの改修やバグ取りの徹底を考えると、<b>全国的な取組として実施するには、3回(3年)程度必要</b>と考えられる。実施してからの不具合は許されるものではないので、慎重の上にも慎重を期することが必要ではないか。【国大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ また、調査書の電子化にあたっては、フォーマットの設計のみならず、特に下記の点をはじめとする<b>実施体制の整備が不可欠</b>であり、十分な配慮をお願いしたい。【私大協】</li> </ul> <p>② 平成31年2月8日に「大学入学者選抜方法の改善に関する協議」がとりまとめた「調査書の電子化の進め方」では、原則として2022年度から電子調査書を用いることとされている。多くの私立大学において電子調査書の利用を可能とするためには、<b>セキュリティに配慮した電子調査書の保管方法を含む電子出願のシステム構築や改修等が必要</b>となる。本来、電子調査書の活用は大学個々の判断に基づくべきことと考えるが、原則化については2022年からの実施ありきではなく、<b>高校側や大学側の準備状況等を十分に勘案</b>するとともに、<b>入念な試行を行い、しっかりとしたシステムを構築</b>することが優先されるべきである。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学と高校側の<b>双方のシステムの質が同等に準備できる</b>ことが必要であろう。同時にそれに相当するハード面の整備が必要となることから、その整備にかけられる期間についても十分に確保できているかが判断しにくい。【公大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>実証事業後</b>に、各設置者及び学校が行う、<b>開発スケジュールおよび予算措置等</b>について示されたい。【全校長】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電子化「移行期」(2021年)の対応</li> </ul> <p>移行期において、すでに電子調査書を導入している高校について、紙媒体が利用できるかの共通見解が必要である。</p> <p>また、<b>募集要項等への記載方法をどのようにするのか</b>、明示されたい。【私短協】</p>

本報告書は、文部科学省の大学入学者選抜改革推進委託事業委託費による委託業務として、関西学院大学が実施している令和元年度電子調査書の普及と一般選抜においても電子調査書が効果的に評価できる環境整備及び調査書における評価の在り方の調査研究（調査書の電子化に関する調査研究）の調査研究の報告を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続きが必要です。